

## クリエイタービジネス論リサーチプロジェクト 2021 感想

総合数理学部 現象数理学科 3年

安部玲音

はじめに、今回このプロジェクトに携わってくださった皆様に深くお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

今回私がリサーチプロジェクトに参加した理由は、総合数理学部で培ってきた数学的な分析やものの見方が調査結果を考える際に活かしたいと思ったからです。結果としては、調査結果に対してエクセルを用いて分析をしてインテリジェンスを導くことができました。今回の経験を踏まえてエクセル以外の分析をして他のインテリジェンスを導くことで分析においてもっと高みを目指していきたいと感じました。このプロジェクトを通して学んだことは2つありました。1つ目はデータに応じたグラフの作成方法、2つ目は共通認識の大切さでした。1つ目は集計したデータに対して最も読み手に伝わりやすいグラフを選択することがとても難しかったです。例えば、見せ方によっては円グラフや積み上げ棒グラフが良いなど様々なパターンがありました。実際にどのグラフを使えば良いのか悩んだ際には、zoom やメールを通して博報堂の研究員の方々や原田兼任講師からアドバイスをいただきました。そのアドバイスを元に最終的にデータを読み手にわかりやすく伝えられるグラフを作成することができました。2つ目は全てリモートでプロジェクトの進行を行ったため仲間たちとプロジェクトの進行の流れを共通認識することの大切さを学びました。例年であれば、教室やキャンパスで顔を合わせるはずの仲間や原田兼任講師と主にメールや zoom を通してプロジェクトを進行していました。そのため時に、メールの文面の読み取り方の齟齬でプロジェクトの進行の流れをバラバラに理解をしてしまっている場合があります。そこでバラバラに理解をしてしまっている現状に対して原田兼任講師とリーダーを中心に今後の zoom ミーティングにおいて必ず何をどのくらい終わらせるのか具体的に文章化をし、その内容を仲間と共有し共通認識ができるように心掛けました。その結果、ミーティングではスムーズに話し合いが進みフィードバックをする時間も増えたためプロジェクトの完成度が高いものにすることができました。今回のこのプロジェクトでは原田兼任講師をはじめとして博報堂の研究員の方々の協力のもと、仲間たちと情報分析の知識やインテリジェンスの導き方を身に付けながら完成させることができました。個人的にこのプロジェクトを通して、同世代の音楽に関する動向を知ることができたのでとても興味深かったです。特に「テレビ離れ」や音楽が聴覚的に楽しむものだけではなく視覚的に楽しむこともできるという結果はとても印象深かったです。

以上